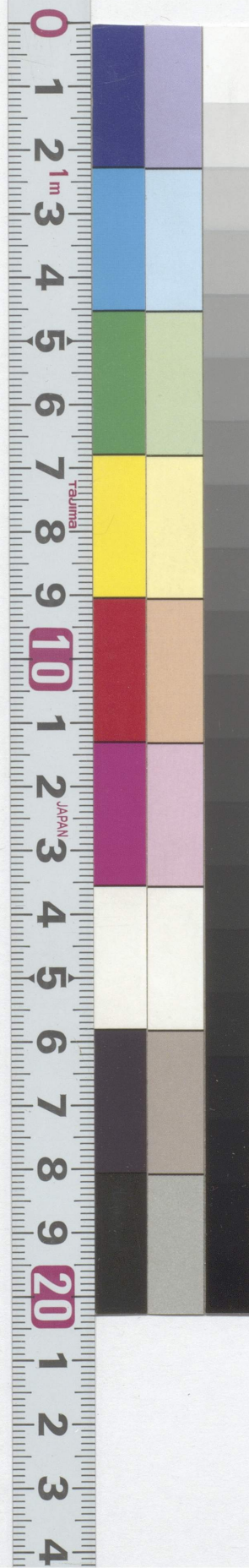


真元算流

自初算見一
至関平関立

上

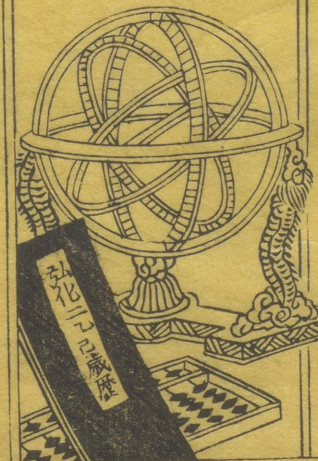


弘化乙巳歲新刻

浪華 武田先生著

真元算濃 三冊

附錄題言壹冊



子星

世に流布する算法は皆秘訣と云ふ所多かり然るに文字のくはて圖又大に於ては
書の冊数多しといふ著例の類あり今此書は紙数少くして半數より少くして大に
彫刻し紙の省きと云ふ秘の秘を多くするより此書の秘を多くするより此書の秘を
奥儀と極する他の書より百倍より宝鑑なり半と云ふ其書と感へるべきなりと云ふ



真元算法

真元算法

真元算法

卷之七

七

弘化乙巳之夏

多政使都議

鈴木國孝



叙

無量齋主武田君以數
術唱於大阪數十年從
游之人遠近雲集而著
書若干循々不倦聲問
達乎司天臺乃賜號

主計正真元算法三卷
蓋亦示其秘要者天保
甲辰孟冬將梓行使余
題一言余辭以道之不
同君曰六藝非淵里之
教乎曰吾輩徒知美翰

墨已何敢望闕里君晒
曰吾人不竭力于此子
等安得嗟焉仰屋梁余
辭窮矣遂書

藤澤甫



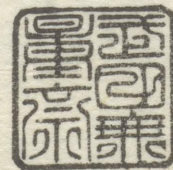
真元算法自叙

古人有言曰順數則知物之所始逆
數則知物之所終數與物非二體
大而天地小而毫末明而禮樂幽而
鬼神知數即知物也故曰數者彝
倫叙也無叙則彝倫數矣是數之
不可不學也余幼而潛心於此道寔前
燈下夙夜仔以涉獵百家秘書而若
書藉數百冊而唯疾有年不能校之

百喁然歎曰若隱於邱壑際絕人
間事以養吾生以脩吾業庶幾有
果吾志歟三門人進曰數者非世外
事何必於邱壑際先生為情業之
癡少子等請勸力校其書於是使
門人校之校終則力疾刻之以略己業
就中真元算法者自商賈日用之
事至諸家奧秘之理析微燦然
正誤粲然衆美備矣固先梓之海

内之士志此道者由是而求教術必
拂迷暗之雲而至真仙之域也勿忽
告 諸天保十五年甲辰初冬金城西
司天臺内測量史

武田王計正源真元撰



真元算濃叙

理之所始數之所起隱也微也人
非無知而真知為難人非無見而
真見為難不知此理者徒擬群書
於某屋陳測器於廳堂以成觀美
亦何足道耶或問真元何也曰天
真天乙始生真元也夫真者从匕

音化

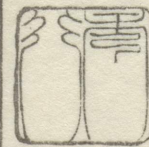
从_レ目_二从_レ山_三乘_二八數_三也元之所宗者
無也至_二其_三神明之德造化之機存
焉無量真元生_レ一_二生_三萬物隱見
變化不可_レ究_二其_三名曰真元術也苟
能_二此_三術者經緯古今包_二羅_三十方翔
心_二於_三天畔潛意_二於_三地軸測_二日_三月運
行及_二山_三岳高昇若_二彼_三仙人羽化而

登_レ天術亦不外_二於_三此我武田先生
天資爽邁夙究_二真元_三之理闡_二先_三哲
未_レ發之蘊能_二通_三天文曆數無_二明_三然
範九疇之秘訣不_レ待易象而吉凶
悔吝自察焉而不_レ為_二觀_三矣也其教
子弟醇_二有_三序只_二以_三心計為要而
為捷徑之術也歸如破竹一節之

後無留^ル又也其所著其元算法可^キ
以^テ知也而^モ是編在^ニ先生則^ニ一時漫^ク
著亦何^レ足^レ盡^ニ於先生之道也秀行
不敏幸^ニ私淑^ニ有聞^ル乃^テ為^ス之叙^カ天保
十五年甲辰初冬

泉州岡田

玉田在兵衛橋秀行撰



真元算法凡例

此書元來二三子校訂して八冊と撰む然るも故に門々其内
五冊と披華し岡田忠貴別書と著し亦之を八冊とて
摘要算法と號し他日彫成るべし此書と併合して觀る時ハ
尚此道の深き不きを察するべし

一先年此書と撰ししを既小數年帳中に藏るべし今年又或る
金錢相場等少く高下の違ひあり然るも其早算の術は於
ハ少くも異なりとて觀るもの趣く之小意と止むる
一人の罪と擧ぐるの聖人甚く之と惡む所なり予も又之と耻
て先服と悔むところ然るも彼照暗算法中に予と継接する

の甚く文有り故に止むを得ず之を改正し中巻
に未だ未だ見るもの之と察す

一 予百家の秘書と涉獵し之を因理教と獲り蓋し諸
算書圖理解ハ八象表九成表東西南北表疊元表等と檢用と
事と拳と其表教と記し以初學者之小圖と然るもの多し
故ふ下之に之を記し之を省くも此表と見る則ち諸家の表と同く
し之緊用の極秘なり疎忽とすこと勿也

一 算道ハ五誤あり所謂算違位違思違見違書違なり此五のものハ
算聖と云ふとも之を遺るる不能故に此書も又其事は人々
他日逐一之を補んのか

真元算法卷之上目錄

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 一 加の法 | 一 十の法 | 一 十の法 | 一 十の法 |
| 一 減の法 | 一 減の法 | 一 減の法 | 一 減の法 |
| 一 小の法 | 一 小の法 | 一 小の法 | 一 小の法 |
| 一 大の法 | 一 大の法 | 一 大の法 | 一 大の法 |
| 一 掛の法 | 一 掛の法 | 一 掛の法 | 一 掛の法 |
| 一 回地の法 | 一 回地の法 | 一 回地の法 | 一 回地の法 |
| 一 同方の法 | 一 同方の法 | 一 同方の法 | 一 同方の法 |
| 一 里の法 | 一 里の法 | 一 里の法 | 一 里の法 |
| 一 諸物の法 | 一 諸物の法 | 一 諸物の法 | 一 諸物の法 |
| 一 算法異名 | 一 算法異名 | 一 算法異名 | 一 算法異名 |
| 一 奇数早考 | 一 奇数早考 | 一 奇数早考 | 一 奇数早考 |
-
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 一 十の法 | 一 十の法 | 一 十の法 | 一 十の法 |
| 一 減の法 | 一 減の法 | 一 減の法 | 一 減の法 |
| 一 小の法 | 一 小の法 | 一 小の法 | 一 小の法 |
| 一 大の法 | 一 大の法 | 一 大の法 | 一 大の法 |
| 一 掛の法 | 一 掛の法 | 一 掛の法 | 一 掛の法 |
| 一 回地の法 | 一 回地の法 | 一 回地の法 | 一 回地の法 |
| 一 同方の法 | 一 同方の法 | 一 同方の法 | 一 同方の法 |
| 一 里の法 | 一 里の法 | 一 里の法 | 一 里の法 |
| 一 諸物の法 | 一 諸物の法 | 一 諸物の法 | 一 諸物の法 |
| 一 算法異名 | 一 算法異名 | 一 算法異名 | 一 算法異名 |
| 一 奇数早考 | 一 奇数早考 | 一 奇数早考 | 一 奇数早考 |

偶数子とを算
 八子数とを算
 自然の数を算
 減法を算
 金ねる早割とを
 同子とを
 水金ののり
 金と銀とを
 銀と金とを
 歩引とを
 利足とを

表とを
 同立方
 帯紐同立方
 例内文とを
 三三と掛け
 三角形とを
 同平方表
 同立方表

此二條は紐の係
 のを算する事

真元算法卷之中目錄

生年九星中宮とを算
 九星五のり
 相生相越のり

一宅と元生命とを算
 同上中下元表
 八宅表

毎日時の十干のり
 人の年数とを算
 三元九星早割の法
 同毎月早割法
 毎日九星方位とを算
 十五をる洛書
 四十をる洛書
 九卦算の割法
 洪範算法占
 男女三元九星早割
 人の五性を知る
 同別法
 小判と一歩とを算
 二歩と一歩とを算
 行列二十龍のり
 壺さん用のり

本命年の数とを算
 同月の数の算
 同日の数の算
 同時の数の算
 二十に洛方位のひりえとを算
 六十に洛方位のひりえとを算
 八十一卦洛書
 自然の数の運とを算
 算する事
 同角とを算
 大文字とを算
 同三とを算
 同安とを算
 同撰とを算
 同とを算
 年とを算

一	十	十	十	十	十	十	十	十	十
一	御祈禱算のり	求積田理術	極救術	梁積術	異問	立方洛書	方四十字環積術	愚問輕題	照暗算法拔書
	五ヶ條	五ヶ條	五ヶ條	十五ヶ條	七ヶ條	七ヶ條	三ヶ條	三ヶ條	

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	熱河	極求	規矩	側圓	球題	交商	雜題	昭明	附探索術
	同極	理術	術	輕題	八ヶ條	六ヶ條	六ヶ條	列子術	合十三ヶ條

真元算法卷之下目錄

一	九	一	一	一	一	一	一	一	一
一	九成表	東南表	八象表	真元算法題言	乃疊元疊陽疊陰太陽少陰少陽太陰虛空也	乃東南東除虛東南除南陽南陰南商陽南商陰南除虛南商除南商除陰	離坤巽艮乾坎兌震	乃天文曆術諸算術監觴記也	

司天家内 武田主計正源真元閱

浪速 同男 武田篤之丞源多則 撰
 同門 安達數馬藤原利緊 編
 泉州人 玉田庄兵衛橘秀行 訂
 備中 太田猶太郎源直温 校

真元算法上之卷

十 中 算 盤 け ぶ 教 範 や くの 定 例

一	二	三	四	五	五	六	七	八	九

夫十露盤の粒を用ひて上のつづ一ツを五リンとも五トとも五文とも五十文とも五百文とも五ノ文とも五十ノ文とも五文とも五十文とも

八進八十	九進九十	〇二ノ段	二天作五	二進二十	四進二十
二進二十	三進三十	四進四十	五進五十	六進六十	七進七十
〇初算	ろり	ご	ろ	〇一ノ段	一進二十

○
初
筈

そごふ

○
一ノ段
進
ガ
二十

一、（イ）文と句文とを区けて
何れがどつ同

美田招文

清江先生文集

よふの十とふ

てけり

上のくえ

十、さかろ、よあ、びじ

一 叙文の如く八文を乞ふて

何
子
子
子
子

善曰
控

清田先生と云ふ所ハ又

くはあしとく

①の部より

① 十を加之

ハ
十
文
と
や
る
へ

一

新文の久々を今も思ふ

行
子
子
子

善曰十一文

物算多し限ありて急用いやく和

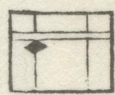
進
が
一
十
と
ハ
た
と
ハ
十
文
を
十
人
ふ
り
進
め
る
人

又々々々々法の上のどろり十文と無一ちんが

一十と⑩の十とをり①へと加ふるまは下の各のごとく

①	②
	◆

二進　　ガ　二十　　ふ　解　る　に　續　二十　又　と　十　人　を　割　り　て　十　人　毎　に　部　又　と　り　て　如　く



掛ておろし十
を加へよ

一四又七又を加へば
善日 十一又

法曰又と並せし
の十と



四のうちに二
て上へ十と



と四まは上の
ごと

一四又七又を加へば
善日 十又

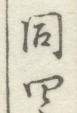
法曰又と並せし
の十と



四のうちに二
て上へ十と

一四又七又を加へば
善日 十又

右進が十と並せし
同 四進が十と並せし



四進が十と並せし
同 四進が十と並せし

四進が十と並せし
同 四進が十と並せし



四進が十と並せし
同 四進が十と並せし

四進が十と並せし
同 四進が十と並せし



四進が十と並せし
同 四進が十と並せし

四進が十と並せし
同 四進が十と並せし



四進が十と並せし
同 四進が十と並せし

四進が十と並せし
同 四進が十と並せし



四進が十と並せし
同 四進が十と並せし

何れも同

善日 十三又

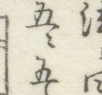
法曰又と並せし
の十と



四のうちに二
て上へ十と

一四又七又を加へば
善日 十一又

法曰又と並せし
の十と



四のうちに二
て上へ十と

一四又七又を加へば
善日 十一又



四のうちに二
て上へ十と

一四又七又を加へば
善日 十一又

八進 二十

法曰又と並せし
の十と

法曰又と並せし
の十と

法曰又と並せし
の十と

法曰又と並せし
の十と

法曰又と並せし
の十と

法曰又と並せし
の十と

法曰又と並せし
の十と

法曰又と並せし
の十と

法曰又と並せし
の十と

十一文



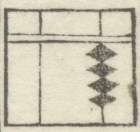
法は向ふ文と
おれたら五文
十と向ふの
いふより
一とあて上
の五とく
①のともへ十とく
く右のごとく
一五文と七文とく
く右のごとく

①のともへ十とく
く右のごとく
一五文と七文とく
く右のごとく

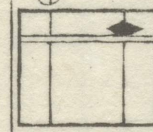
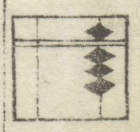
法は向ふ文と
おれたら五文
十と向ふの
いふより
一とあて上
の五とく



①のともへ十とく
く右のごとく
一五文と七文とく
く右のごとく



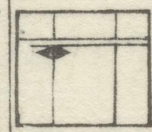
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



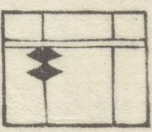
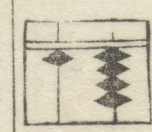
五進一十
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



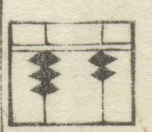
六の限割と名用ひやうの和算



六一下加四
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



六二二
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



六二天作五
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



て上のごとく

一五文とハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく

法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



①のともへ十とく
く右のごとく
一五文と七文とく
く右のごとく

法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく

法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく

法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



①のともへ十とく
く右のごとく
一五文と七文とく
く右のごとく

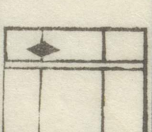
法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



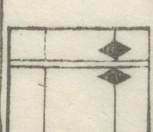
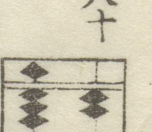
六四六十四
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



六五八十二
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



六進一十
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



七一下加三
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



同七の限割と名用ひやうの和算



七一下加三
ハ文とくは法は向ふ門四文とくは五文に
とくはハ文とくはハ文のごとく



亭

法に先白思ふのみ
ハ文と題白つづの

そのまゝのどろどろ——加ふるちり

ニツとて上のやう

七	八	五	十	六	七	九	六	十	三	八	八	六	十	四	八	九	七	十	二
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

一十と一人上れ
 一八丈と九丈と一人
 何れと向

善曰 十七丈
 法は同くおまづつれ
 ぐくハ丈と九丈と
 一十と一人と向く
 の一と一人と上の
 一人と一人と向く
 上のと

一八丈と九丈と一人
 何れと向

善曰 十丈
 法は同く九丈と九丈と
 ぬぐくハ丈と九丈と
 一十と一人と向く
 の一と一人と上の
 一人と一人と向く
 上のと

一八丈と九丈と一人
 何れと向

九九八十一 初さん又一のうまうりと學さんと欲せし
 右のあつた九のこゑを能くわひのうらふまへに
 ことやうとすべしとのなり

初さん九九の声用いすの和解

一ニ一ガ一
 一と八の聲は九と九とを指し簡の中を何れと
 同善曰十が九と九とを指し簡の中を何れと
 け二と九とを指し簡の中を何れと

一ニ二ガ二
 一と八の聲は九と九とを指し簡の中を何れと
 善曰十が九と九とを指し簡の中を何れと
 け二と九とを指し簡の中を何れと

一ニ三ガ三
 一と八の聲は九と九とを指し簡の中を何れと
 善曰十が九と九とを指し簡の中を何れと
 け二と九とを指し簡の中を何れと

右に外一四ガ四 一ニ五 五 一ニ六 六 一ニ七 七

一八丈と九丈と一人
 何れと向

善曰 十一丈
 法は同く九丈と九丈と
 ぬぐくハ丈と九丈と
 一十と一人と向く
 の一と一人と上の
 一人と一人と向く
 上のと

一八丈と九丈と一人
 何れと向

善曰 十二丈
 法は同く九丈と九丈と
 ぬぐくハ丈と九丈と
 一十と一人と向く
 の一と一人と上の
 一人と一人と向く
 上のと

一八丈と九丈と一人
 何れと向

一八ガ八 一九ガ九 等しねす人のくく 既のうらふ

二ニ二ガ二
 一と八の聲は九と九とを指し簡の中を何れと
 善曰十が九と九とを指し簡の中を何れと
 け二と九とを指し簡の中を何れと

二ニ三ガ三
 一と八の聲は九と九とを指し簡の中を何れと
 善曰十が九と九とを指し簡の中を何れと
 け二と九とを指し簡の中を何れと

二ニ四ガ四
 一と八の聲は九と九とを指し簡の中を何れと
 善曰十が九と九とを指し簡の中を何れと
 け二と九とを指し簡の中を何れと


二ニ五ガ五
 一と八の聲は九と九とを指し簡の中を何れと
 善曰十が九と九とを指し簡の中を何れと
 け二と九とを指し簡の中を何れと

二ニ六ガ六
 一と八の聲は九と九とを指し簡の中を何れと
 善曰十が九と九とを指し簡の中を何れと
 け二と九とを指し簡の中を何れと

らゑ上へ十を加へて

四
五
二
十
四
六
九
四
四
七
九
八
等之如中人

一八九五ノ文ヲ那ヘ何
ト向 善田 十七 文
法 田中ノ文ヲ何ノ如ク



 ちり みみだてぬふてやち 極と法に向かうぬふと五ぬふち
 ふかしくうもけ新
 ととて玖のぬとや ぬうとふふとうふとやのどく

の十とろとろ
つづのぞろぞろ
五とろとろの二とろとろ
はよのぞろ

十三文内七文引のう
何希々白

善田六又
法と曰ふが十二又と無七
と云ふ二の三と云ふれ

十
二
五
二
二

一十又二内十二の
何程の 着四七又
法は同す十又二並七
て三あるとてふ
ふあやうの十をなす

A detail from a Japanese manuscript, likely a calendar or a table of numbers. It features a grid of diamond-shaped symbols (possibly representing the Japanese numeral '4' or a specific symbol) arranged in rows and columns. The symbols are dark and set against a light background, with some symbols appearing to be part of a larger, more complex arrangement.

一 束拾銀万二千五百五十石七斗八升八合と
二 又柳井 銀十萬石九百十三石五斗七升八合と
三 又柳井 銀十萬石九百十三石五斗七升八合と

二九十八と	ぬを	十ふつろり	ハを	く	ゆる
二十八と	ハを	十ふつろり	アを	く	ゆる
二十七と	七と	十五つろり	ロを	く	ゆる
二十六と	六と	十ふつろり	ニを	く	ゆる
二十五と	五と	十五つろり			
二十四と	八と	四と	ハを	く	ゆる
二三と	三と	十一と	ホを	く	ゆる
二二と	二と	十二と	ロを	く	ゆる
二一と	一と	十三と	ニを	く	ゆる

一、東十郎万三、田百五十、石
 七年八、林、ぬ、合、と、二、は、二、割、り
 六、万、五、七、百、二、十、八、石、三、年、九
 林、合、五、万、と、り、り

日　　う　　る　　ん

[illegible]

二 六 十 二	二 七 十 二	二 八 十 一	二 九 十 六	三 十 六 八	四 十 八	五 十 九	六 十 十
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-------------	-------------	-------------

ちうのめくちん
とじのニをよ

一様歟と因て五訓のう
れをよむは善むと又
後向先十歟とと懸念す

てはのうゝひのちとなりて
ふぢのぬくよのちにて
しるのちとてなり
よのちなり

「十三」又「四」又「五」又「六」又
「七」又「八」又「九」又「十」又
「十一」又「十二」又「十三」又「十四」又
「十五」又「十六」又「十七」又「十八」又
「十九」又「二十」又「二十一」又「二十二」又
「二十三」又「二十四」又「二十五」又「二十六」又
「二十七」又「二十八」又「二十九」又「三十」又

ふくまのふくま
下とちー下のふ
ふくまのふくま
ふくまのふくま

一銀三拾七萬〇二百十拾五三百六十九兩と

三ツ又割ハ 北郎万子四角五拾五重七角ノ箱内入ル

ぬちんう三十とぬとろひおつとととゆふなり。
 ちちんう二十 三二六十二
 ちちんう一十 三二六十二
 三二六十二
 ちちんう二十 三二六十二 二とちちの作り及二とちちの作り
 ちちんう一十 三一三十一
 三一三十一
 ちちんう二十とちちの作り及二とちちの作り及二とちちの作り
 ちちんう一十と二とちちの作り及二とちちの作り

一銀抄萬三千四百五拾兩七錢八分

三子御まへ三和七万〇三石十石舞三石六拾七匁とあり

三九二十と七と五と二と一と
 三八二十と八と二と一と
 三七二十一と七と二と一と
 三六十八と六と二と一と
 三五十五と五と二と一と
 三四十二と四と二と一と
 三三九と三と二と一と
 三二六と二と一と
 三一三と一と

十

一粟	一撮	一勺	一升	一斛	一度	田	一段	一町	一錢	一字	一文	十文
十粟也	十圭也	十抄也	十升也	十斛也	十六圭也	地	三百歩也	二千歩也	十文也	一字也	一文也	十文也

一、米、拾萬三千石、五拾六石、七斗、八升、九合、也。
六、掛、三、八十、拾、四、萬、〇、十、石、四、拾、石、〇、十、斗、三、升、四、合、也、也、也、

[illegible][illegible][illegible][illegible]

一浪ハ粒出方 字子加粒 十中一 五粒 細粒 云々
上ノ刻ニ 粒出方 三子 同五粒 出 十百ハ 粒 出 云々

[illegible]

一銀五萬五千七百九十九

七の掛より
一、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一乘	一里	一度	一由旬	一騎	一俱舍	一里	一町	一尋	一仞	一丈	一間	一尺	一重	一省	一金	一銀
八	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

八割とる

一、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一乘	一里	一度	一由旬	一騎	一俱舍	一里	一町	一尋	一仞	一丈	一間	一尺	一重	一省	一金	一銀
八	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

八割とる

一、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

醬油	油	淡	塩	白砂糖	金米糖	大豆	小豆	米	交	大根	蕪	白瓜	茄子	里芋	薩芋	芋焼	味噌
八匁六分	六匁六分	九匁三分	六匁七分	四匁六分	五匁六分	四匁七分	六匁	六匁	五匁九分	八匁三分	六匁七分	四匁七分	四匁三分	八匁七分	七匁二分	八匁八分	四匁七分

右に著る本の煙
を人々の口の中
に送り込むの如く
あるものだから
それと知ると思ふ
を物々しく感してよ
ろしく實際に於て
この煙草をどうある
べきかの事なり

見
一
く
ろ
う
ん

一銀卦百五於五爻と十七と割と

善曰於五成之とあるなり

五進が五十	五七三十五
一しんが一十	二七が七で三のろ

は、同様の十ふて〇の
一とすると、二と三と

④のニと①のニとめ女の七と

河内三十四と口へくぬめふくらんがニハいせざるなり口れ

うちつろそ①へてろゑ進が二十とくろとと同安の七と

右の如く仕へて
善い口を十文
とりの銀を十文と
屋敷をふくと人
二十とぬき色こ
銭十文をうると石
銭十文とする空法二
つゝこれに銭百文と
しめ是よりしら儀の
枚と人の長利なり

同 浪早寄弄

見五く版かけざん

一銀四匁あをを 五百六十八まかけきバ


計算五五五十六あををめちう

五八四十	四八三十二	五八四十と二はををる同安
五六三十	四六二十四	の六と四の五とん合一五六三十
五五二十五	四五二十	

と①は二とをる同安の五と④の五とん合一五六廿五と
④の五と二はをり⑧五とをる同安の八と①の五とん合
四八廿二と⑧二入三とをる同安の六と①の五とん合
四六廿四と④二入二とをる同安の五と①の五とん合

一、米八拾四万八千六百貳拾五石と、
 六百七十九石九割八分、
 百貳十九石七斗八升

[illegible]


 ①のハと六進ぐ二十と六とをふひ①へ一とくくるこの一と目
 安の七とん合一七セガ七い三のとると②の一とよりて
 ①は二とくくるめ安のハと①の一とん合一ハガハ
 ①と②よりハ目安のれと①の一とん合一九ガ九
 ①と一のとると②のうらよりて②へ一とくくる②の
 改は二のとると一と目安のちとよりてハ加下と一ハのより①へ
 ①とくくると六進ぐ二十と①のうらちとをふひ②へ一とくくる②の
 捌二とくくるこの二とめ安の七とん合一七十四と①②と一四
 ①②の二と目安のハとん合二十八と①と②よりて六いなり①の
 二と目安のれとん合一二十九ハて二のとると②よりて一ハあり

①の柳は三つりこの三と同安の六とより六三天作ふと三とふは作り
 このふと同安の七とふ合ふと七と三とふ引くと②③④より三とふ引く
 ①②③のふとふ合ふと八と三とふ引くと④より四と引く同安の九と①のふとふ合
 五九四ふ引くと⑤⑥より四と引く商は百二十ふ石とふなり
 見え六と版かけざん
 一木百貳拾五石と 六ふ七百八十ふは掛まづ
 八拾四万八ふ百貳十五石とかるなり
 注と旧同安の九と①の五とふ合ふと五九四十
 五九四十ふ
 五八四十ふ 三九十八ふと三とふ引くと二とふ引くと
 五七三十ふ 二八十八ふと二とふ引くと一とふ引くと
 五六二十ふ 二七十八ふと二とふ引くと一とふ引くと
 二とふ引くと
 五八四十と⑥は四十とより同安の七と①のふとふ合ふと
 五七三十と②③④へ三とふとより同安の六と①のふとふ合
 五と三とと五とふは作りなりとより同安の九と②の二と
 ふ合ふと二九十八ふとふの千と③④は二八とより同安
 八と②の二とふ合ふと二八とと③④へ二とより同安の七と②の二
 とふ合ふと二七十四と⑤⑥へ二とより同安の六と②の二とふ合ふと

[illegible]

六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三
廿五爻	廿五爻	廿五爻	廿五爻	廿五爻	二十爻	二十爻	二十爻	二十爻	二十爻	十五爻	十五爻	十五爻	十五爻	十五爻	十五爻	十爻	十爻

二三六六引て四のちと⑤のちと二つよりて①よりて入る同安の七と②
 ②の二と七下加三と一はそのまゝ③よりて入る同安の七と④の二と八
 二六六六引と③よりて入る同安の七と④の二と八合一三五五引て五の
 ちと⑤のちと二つよりて⑥よりて入る同安の七と⑦の二と八合一
 二六六六引と①よりて入る同安の七と②の二と八合一三三三引と①より
 三三三引と②の七と七よりての七と同安の七と二つよりて七と七と
 の七と③の七と七よりて④よりて入るこの七と同安の七と八合一
 一六五十四引と⑤よりて五十四引と入る同安の七と⑥の七と八合一
 一六五十四引と⑦よりて五十四引と入る同安の七と⑧の七と八合一
 一六五十四引と⑨よりて五十四引と入る同安の七と⑩の七と八合一
 一六五十四引と⑪よりて五十四引と入る同安の七と⑫の七と八合一
 一六五十四引と⑬よりて五十四引と入る同安の七と⑭の七と八合一
 一六五十四引と⑮よりて五十四引と入る同安の七と⑯の七と八合一
 一六五十四引と⑰よりて五十四引と入る同安の七と⑱の七と八合一
 一六五十四引と⑲よりて五十四引と入る同安の七と⑳の七と八合一
 一六五十四引と㉑よりて五十四引と入る同安の七と㉒の七と八合一
 一六五十四引と㉓よりて五十四引と入る同安の七と㉔の七と八合一
 一六五十四引と㉕よりて五十四引と入る同安の七と㉖の七と八合一
 一六五十四引と㉗よりて五十四引と入る同安の七と㉘の七と八合一
 一六五十四引と㉙よりて五十四引と入る同安の七と㉚の七と八合一
 一六五十四引と㉛よりて五十四引と入る同安の七と㉜の七と八合一
 一六五十四引と㉝よりて五十四引と入る同安の七と㉞の七と八合一
 一六五十四引と㉟よりて五十四引と入る同安の七と㊱の七と八合一
 一六五十四引と㊲よりて五十四引と入る同安の七と㊳の七と八合一
 一六五十四引と㊴よりて五十四引と入る同安の七と㊵の七と八合一
 一六五十四引と㊶よりて五十四引と入る同安の七と㊷の七と八合一
 一六五十四引と㊸よりて五十四引と入る同安の七と㊹の七と八合一
 一六五十四引と㊺よりて五十四引と入る同安の七と㊻の七と八合一
 一六五十四引と㊼よりて五十四引と入る同安の七と㊽の七と八合一
 一六五十四引と㊾よりて五十四引と入る同安の七と㊿の七と八合一
 一六五十四引と㊿よりて五十四引と入る同安の七と㊿の七と八合一

見七版かひざん

一浪貳拾壹分五厘を 七万六千五百四十三兩

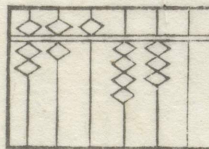
二十四同	十	夜
二十五同	十	夜
右のごとく入子	十	夜
五番あり第一番浪井	十	夜
ちり六番同ごとく	十	夜
五	十	夜
合派らやごとく	十	夜

イロハニホトチリ

子六百八拾貫百拾八文八分五厘

[illegible]

〆
 五石目
 砌は六番の内定一番
 を減一五番と必以て
 二十五番とせよハ五友
 と必内二友減一余り
 ニツラウ五友をかちれば
 十友と必比く一番限
 三十友と減一二十友
 と必番う凡十五番を
 掛しハ懸掛浪字五
 石目と必なり



はは同安のこと②のふとん合—三ふ十ふと③④二ふと
ろろ同安のふと③のふとん合—はふ二十ふと④ろろ
二十とろろ同安のふと③のふとん合—ふふ二十ふと⑤
①ふ二ふとろろ同安のふと③のふとん合—ふふ三ふと
⑥ふ三ふとろろろ同安のふと③のふとん合—五七ふ
ふとふとふとろろろ⑥ふふとろろろ同安のふと③の
ふとん合—ふふ七と④ふ二ふとろろ同安のふと③のふとん合
ふ九ふふふとふとふと⑥ふふふとろろ同安のふと③のふとん合
ふ六ふふふと③ふふふとろろ同安のふと③のふとん合—七
ふふふとふとふとふと③ふふふとろろ同安のふと③のふとん合
④のふとん合—三ふ三と④ふ三とろろ同安のふと③のふとん合
一ふとふと⑤ふとろろ同安のふと③のふとん合—二ふふふと
ふとふと⑥ふふとろろ同安のふと③のふとん合—二ふふふと②ふ

十三月	二十兩二ア
十四月	二十兩二乙朱
十五月	二十兩三ア
十六月	二十兩三乙朱
十七月	二十二兩
十八月	二十二兩二朱
十九月	二十二兩一ア
二十月	二十二兩乙朱
二十一月	二十二兩二ア
二十二月	二十二兩乙朱
二十三月	二十二兩三ア
二十四月	二十二兩三乙朱
二十五月	二十三兩
二十六月	二十三兩二朱
二十七月	二十三兩一ア
二十八月	二十三兩乙朱
二十九月	二十三兩二ア
三十月	二十三兩乙朱

三三七	二四七	九三下加三	九三下加三とらづく三を 七とねまう①へ三とらうとらう まう②のうらねとらうとらう れらんが二十と④へ二とらうと 二四が八と二のうと①のうら二とらうと②へ二とらうとらう 同安の七と④の四とらん合一四七廿八と②④とく二八と かなる又三と四とらうとらう
三三六	二四八		
三三六	二四八	九三下加三	

見れゝ阪かけざん

一浪 三又四分を 九百二十七ふかきい

A photograph of a traditional Japanese abacus (soroban) with the number 1082 written above it in circles.

[illegible]

開平方九九のこゑ

六		二シ	
六	十三 十六	ダ	〇〇 五九一
七		ニシ	
七	二四 四十九	ガ	二四
八		三	
八	三十六 三十四	ガ	四九五
九		四	
九	四八 〇十一	ダ	十十六
		五	
		五	二十二十五

一積子二萬七千五百方其高八寸二分

善同
三十五
間

樹曰、積子、銀の二拾五歩とて、五先位をうけるゝ十の位とて、さる
二枚あるとて、本九九ありて、二二が九の歩引きのより、三の廿五歩と
する定法二二刻は、さるに一五と下下の条の如く、叔頭の一とさるの三とを

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

常縱平方

一積るる歩ありを主より横ハ五る程にて主横各所内と

同
善曰
橫立
十二
五十
乃乃

善曰
橫立
十二
五十
乃乃

言曰 三百四十文
 一銭と十八文五厘と
 あり減ねて後文は五厘
 あり減ねて後文は五厘
 あり減ねて後文は五厘

言曰 三百四十文
 一銭と十八文五厘と
 あり減ねて後文は五厘
 あり減ねて後文は五厘
 あり減ねて後文は五厘

言曰 三百四十文
 一銭と十八文五厘と
 あり減ねて後文は五厘
 あり減ねて後文は五厘
 あり減ねて後文は五厘

御曰 互換の差は五厘を差して二割に二割を差して
 自を差して二割に二割を差して二割を差して二割を差して
 中を減し余り換十五厘を差して二割を差して二割を差して

今五に五を換二十五の因に有り又別は五に五を換二十五の因に有り
 七十五歩を以て右の恰好を換るを以て五に五を換二十五の因に有り

御曰 五に五を換二十五の因に有り又別は五に五を換二十五の因に有り
 七十五歩を以て右の恰好を換るを以て五に五を換二十五の因に有り

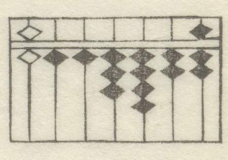
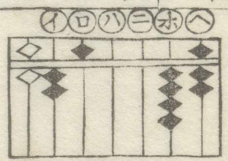
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

一銭五文と八文四厘と
 一銭五文と八文四厘と
 一銭五文と八文四厘と

一銭五文と八文四厘と
 一銭五文と八文四厘と
 一銭五文と八文四厘と

一銭五文と八文四厘と
 一銭五文と八文四厘と
 一銭五文と八文四厘と

一銭五文と八文四厘と
 一銭五文と八文四厘と
 一銭五文と八文四厘と

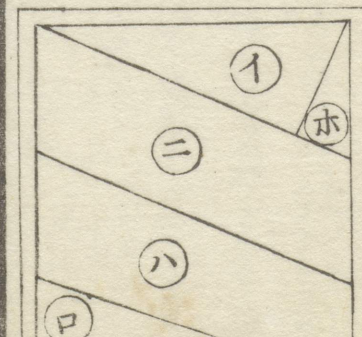


御曰 換方五万〇〇四十と先位とを以て十の位とを以て
 五と先位とを以て十の位とを以て十の位とを以て十の位とを以て

御曰 換方五万〇〇四十と先位とを以て十の位とを以て
 五と先位とを以て十の位とを以て十の位とを以て十の位とを以て

上合平と上合して 甲角又平之儀と云

一、金指履六十文下の履金一兩
或ハ二歩二兩又ハ六歩一歩
是より右に記を承金との敷
六二五、當り金より何れも同

[illegible]

降義ノ事乃其原也及乃卜及立之法以之第之六二

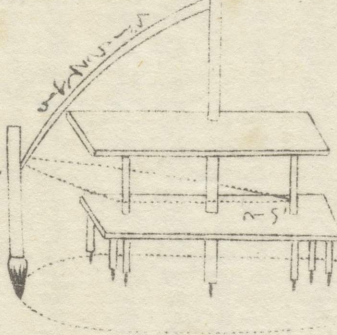
分、半と如、元分を以て二十八、二八と如、倍之して五六五六と如、升二
 の法と凡二十八、二八を自乗して、さゆ九千九、攝七五八四と如、必て八
 攝を減し、余り〇〇二、分四六と如、及減者ハ升二の法を以て除之
 と、同毛二千、余と如、二、撮ハ分二八を加へ亦ハ減差を以て
るハ減之、二、撮ハ分二八、二
 一毛と如、ちり尚、差位を求めんと、歟するものハ、并なく、次御と施
 すと、一、め、は、能く、済、解、するものハ、何十、を、法、をも、同、を、以、て、一

卷之五

右一朱の代派と云ふ今お座を知
ニアニ朱の代派と云ふ今お座を知
同創と云ふニアニ朱の代派と云ふ今
お座と云ふニアニ朱の代派と云
て今お座と云ふ同創と云ふ即永
全の教同と云ふぬ公同永全と云
時右の如くは其用す可なり
即ち右の如くは余の如くは
の例と云ふ可なり

八	六	四	二	金
一	退	退	退	早
二	九	六	三	掛
八	六	四	二	聲
九	七	五	三	
一	一	退	退	一
四	二	八	四	退
四			八	一
				六

文止一は余も之と思ふ事久しき事ども
 とも猶多き事ふむ故に
 たる爲例と雷く一助
 ともるれうと其爲を症候



右のてくまん中の鼎を
よ下の穴の中へ落しよとて
さし録つてふ。後弱とて
まねてふ。先帝系

一 銀三十貫文のりきと
又万人刻をなす位
いんとう

一 銀三十貫文のりきと
又万人刻をなす位
いんとう

美にそふ人まふト
 湖右人数の万人人
 のびをちて一十百千万と
 かぞへぬび数五本の指
 方の一位十のまゝぬふ
 一ノ百十な一下とぬ美へ
 度せば五本の指分の
 位は南の方をへまふト
 かなむとぬふト

一 張とあり是六子と掛
て一八とふけ位へんと向

善曰 浪言一廿八日月
御曰 存の月安六子也格と

抄多之二十百千とすれバ
 日本を以て実救ふ分の

修一のぬよりぬ十ぬ百
ぬ一ぬとを之列寫ぬ
ぬ八百ぬと知る

を以てその系中の極を

時月無と例系の取ら
 本あるうそは只そ一語

とたはのち上下の板殺
と逆空殺をまじへて側
用の木と重くきまり

三點を没け円周切線

今如量隨念云々と
没け云々切内周を

得る通半と爲

善曰たのごとく
矩曰意匠くでこそ父や氣

ら死甲乙丙点と記し三四
段々進バ丁戌己庚各三層

円の交りや爲に交りや

線を没くまゝ兩線の交り

四	三	二	一	
六四〇〇〇 四八〇	二七〇〇〇 二七〇	八〇〇〇 一二〇	一〇〇〇 三	
六八九二一 五〇四	二九七九一 二八八	九二六一 一三二	一三三一 三六	一
七四〇八八 五二九	三二七六八 三〇七	一〇六四八 一四五	一七二八 四三	二
七九五〇七 五五四	三五九三七 三二六	一二一六七 一五八	二一九七 五〇	三
八五一八四 五八〇	三九三〇四 三四六	一三八二四 一七二	二七四四 五八	四
九一一二五 六〇七	四二八七五 三六七	一五六二五 一八七	三三七五 六七	五
九七三三六 六三四	四六六五八 三八八	一七五七六 二〇二	四〇九六 九七	六
一〇三八二三 六六二	五〇六五三 四一〇	一九六八三 二一八	四九一三 八六	七
一一〇五九二 六九一	五四八七三 四三三	二一九五二 二三五	五八三二 九七	八
一一七六四九 十二〇	五九三一 四九六	二四三八九 二五二	六八五九 一〇八	九

九	八	七	六	五
八 一 〇 〇	六 四 〇 〇	四 九 〇 〇	三 六 〇 〇	二 五 〇 〇
一 八 〇	一 六 〇	一 四 〇	一 二 〇	一 〇 〇
八 二 八 一	六 五 六 一	五 〇 四 一	三 七 二 一	二 六 〇 二
二 八 二	一 六 二	一 四 二	一 二 二	一 〇 三
八 四 六 四	六 七 二 四	五 一 八 四	三 八 四 四	二 七 〇 四
一 八 四	一 六 四	一 四 四	一 二 四	一 〇 四
八 六 四 九	六 八 八 九	五 三 二 九	三 九 六 九	二 八 〇 六
一 八 六	一 八 六	一 四 六	一 二 六	一 〇 六
八 八 三 六	七 〇 五 六	五 四 七 六	四 〇 九 六	二 九 一 六
一 八 八	一 〇 五 八	一 四 八	一 二 八	一 〇 八
九 〇 二 五	七 二 二 五	五 六 二 五	四 二 二 五	三 〇 二 五
一 九 〇	二 二 七 〇	六 一 五 〇	一 一 三 〇	一 一 〇
九 二 一 六	七 三 九 六	五 七 七 六	四 三 五 六	三 一 三 六
一 九 二	三 一 七 二	一 七 五 二	一 三 二	一 一 二
九 四 〇 九	七 九 六 九	五 九 二 九	四 四 八 九	三 二 四 九
一 九 四	一 七 四	一 五 四	二 三 四	一 一 四
九 六 〇 四	七 七 四 四	六 〇 八 四	四 六 二 四	三 三 六 四
一 九 六	七 一 七 六	一 五 六	一 三 六	一 一 六
九 八 〇 一	七 九 二 一	六 二 四 一	四 七 六 一	三 四 八 一
一 九 八	一 一 七 八	一 五 八	一 三 八	一 一 八

歩引さん

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

若旧 旧貫月

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

正味付程とる

若旧 旧貫月

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

利足さん

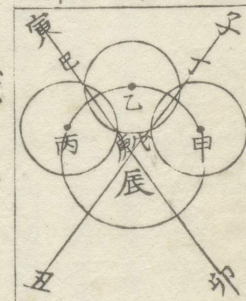
一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

若旧 旧貫月

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

規矩解



一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

三角早く書く法

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

一浪の月あり内三割
あり正味付程とる

九	八	七	六	五
七二九〇〇〇	五一二〇〇〇	三四三〇〇〇	二一六〇〇〇	一二五〇〇〇
二四三	一九二八	一四七〇	一〇八〇	七五〇
七五三五七一	五三一四四一	三九七九一一	二二六九八一	一三二六五一
二四八四	一九六八	一五一一	一一一六	七八〇
七七八六八八	五五一一三六八	三七三二四八	二三八三二八	一四〇六〇八
二五三九	二〇一七	一九五五	一一五三	八一
八〇四三五七	五七一七八七	三八九〇一七	二五〇〇四七	一四八八七七
二五九四	二〇六六	一九九八	一一九〇	八四二
八三〇五八四	五九二七〇四	四〇五二二四	二六二一四四	一五七四六四
二六五〇	二一一六	一六四二	一二二八	八七四
八五七三七五	六一四一二五	四二一八七五	二七四六二五	一六六三七五
二七〇七	二一六七	一六八七	一二六七	六〇七
八八四七三六	六三六〇五六	四三八九七六	二八七四九六	一七五六一六
二七六四	二二一八	一七三二	一三〇六	九四〇
九一二六七三	六五八五〇三	四五六五三三	三〇〇七六三	一八五一九三
二八二二	二二七〇	一七七八	一三四六	九七四
九四一一九二	六八一四七二	四七四九五二	三一四四三二	一九五一一二
二八八一	二三二二	一八二五	一三八七	一〇〇九
九七〇二九九	七〇四九六九	四九三〇三九	三二八五〇九	二〇五三七九
二九四〇	二三七六	一八七二	一四二八	一〇四四

